

頭蓋形成術を要した3例。感染後前頭骨片を除去、骨欠損に対して三次元 CT の slice date をもとにして hydroxyapatite ceramics plate を作成した。感染骨片除去、平均3ヶ月後に HAP plate を用い頭蓋形成術を施行した。手術の際には temporoparietal fascioperiosteal flap を挙上して埋入した HAP plate の表面を被覆した。結果：3例とも術後に感染はなく、埋入部位の発赤や液貯留などの局所反応もなく、良好な頭蓋形成が得られた。まとめ：hydroxyapatite ceramics を用いた頭蓋形成は個々の症例に合わせて作製でき異物反応もなく優れた方法である。

A-48) 聴神経鞘腫摘出術後に発生した Hypertrophic cranial pachymeningitis の1例

切替 典宏・日高 徹雄 (八戸赤十字病院)  
大和田雅信・笹生 昌之 (脳神経外科)  
小穴 勝磨 (シルバー温泉病院)  
小川 彰 (岩手医科大学 脳神経外科)

Hypertrophic cranial pachymeningitis (以下 HCP) は頭蓋底部に好発し、頭痛や多発脳神経障害で発症するとされている。我々は聴神経鞘腫術後10年目の MRI で incidental に指摘された小脳テントから穹隆部大脳鎌に至る広汎な HCP の症例を経験したので報告する。

症例は72才男性、肺結核にて32才時に胸郭形成術、52才時に右脳梗塞と糖尿病を指摘されている。60才時に味覚低下、聴力障害、左顔面の知覚低下出現し当科受診、左小脳橋角部の large polycytic mass と水頭症を認めため VPshunt を施行し、2ヶ月後に腫瘍全摘出術を行った。術中硬膜の肥厚所見は認められず、組織は neurinoma であった。

術後下位脳神経麻痺による嚥下障害が出現したが漸次改善し、摘出術後3ヶ月目に独歩自宅退院、外来 follow とした。術後4年目の MRI では腫瘍の再発所見なく HCP の所見も認められなかったが、10年目の MRI では小脳テントから大脳鎌までの硬膜がほぼ均一に肥厚しており、T1 で低信号、T2・プロトンで高信号を呈し、Gd-T1 で著明に増強された。各脳神経系の機能検索を行ったが術直後に比べて低下しているものはなく、11年目の MRI でも硬膜肥厚の増悪所見は認められていない。

今後も注意深い観察を行ってゆく方針である。

A-49) 肥厚性硬膜炎の3例

齋藤 桂一・天笠 雅春 (山形市立病院)  
鈴木 保宏・佐藤 壮 (済生館脳神経外科)  
小林 和夫 (同 神経内科)  
湯田 文朗 (同 病理)

肥厚性硬膜炎は頭蓋または脊柱管の硬膜に広範な炎症性の肥厚を形成し、脳・脊髄神経障害、あるいは中枢神経系の圧迫による症状を呈するもので、きわめて稀とされてきたが、MRI の登場以降その報告例が増加している。これまで当院で経験した3例の神経放射線学的所見、病理組織学的所見を中心に提示する。

症例1は68才女性で左側の多発性脳神経麻痺を認め、手術による可及的摘出と副腎皮質ステロイドの投与を行った。症例2は55才女性で右上顎洞に発生した inflammatory pseudotumor が眼窩内・頭蓋内に進展し右視神経萎縮、全方向性眼球運動障害、顔面知覚鈍麻を呈したもので、副腎皮質ステロイドの投与および放射線照射を行った。症例3は55歳女性で視力・視野障害を呈し、手術による可及的摘出と副腎皮質ステロイドの投与を行った。症例3を除き典型的な CT および MRI 像を呈し、いずれの症例も再発はみられていない。

A-50) 皮下膿瘍が成因と思われた頭皮動静脈瘻の1例

金森 政之・関 薫 (石巻赤十字病院)  
北原 正和 (脳神経外科)

頭皮動静脈瘻は比較的まれな疾患であり、その成因としては外傷性や先天性のものが多い。今回我々は、頭皮下膿瘍が成因と思われる頭皮動静脈瘻を経験したので、若干の考察を加え報告する。症例は65歳の女性で、左側頭部の拍動性雑音を主訴として当科紹介となった。左側頭部に bruit を伴う拍動性腫瘍が認められたが、頭部 CT 及び MRI では異常所見は認められなかった。左外頸動脈写にて、拡張した左後頭動脈と流入静脈として異常に拡張した左浅側頭静脈が認められ、頭皮動静脈瘻と診断した。そして症状の増悪が認められることより摘出術を施行した。術後経過は良好で症状は消失し、頭部血管造影上も異常血管は認められなくなった。本症例では、明らかな頭部外傷の既往はなく、また経過も一年以内であり、外傷性及び先天性の成因は否定的であった。発症の約半年前に左耳介後部に皮下膿瘍の既往があり、これが発症の一因であった可能性が考えられる。